

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470101967		
法人名	医療法人 展寿会		
事業所名	認知症対応型グループホーム「ふじ乃家」<本館>		
所在地	大分市大字寒田235番地の16		
自己評価作成日	平成30年9月1日	評価結果市町村受理日	平成31年1月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成30年10月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・理事長自ら利用者と共に楽しめる四季折々の場所の提案があり多くの利用者に参加して頂けるようにしている。 ・梶本医院との併設により急変時の体調の変化等を報告しすぐに対応できる

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・室内に中庭で育てた山野草を活け、食事も季節感を大切に手作りのものを提供することで、利用者の回想につながり会話も弾むことが多い ・近隣の散歩や買い物など日常的な外出や、年中行事として季節毎に遠出を計画し医師や看護師が同行するなど、利用者の楽しめる外出支援につとめている ・研修やスキルアップに向けて職員の育成に力を入れているため職員の有資格者が多い ・法人の医療施設が隣接しており、24時間体制で医療・看護との連携ができています

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作り玄関や事業所内の見えるところに掲げている。職員は朝礼時に全員で唱和している。日常業務の中でも常に意識して実践につなげるよう努力している。	地域との連携、交流を大切にすることを理念に掲げ、玄関やホールに掲示している。毎朝、唱和するとともに毎月1回の全体会議で理念の確認をしている。採用時は理念の実践についてオリエンテーションを行い、日々のケアの中で実践している	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	GH独自ボランティアの受け入れや、法人全体で行われる行事に参加し、入居者が地域の方と交流できるようにしている。また、職員も地域の防災訓練に参加している。	事業所は自治会に加入しており、地域の防災訓練に参加したり、法人の盆踊りや講演会なども地域住民が多数参加している。高校生や専門学校の実習やボランティアの受け入れなどを積極的に行っている	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じ認知症の方の理解や支援の方法を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年6回開催し、運営状況、利用者状況、医療関連の事例等の報告を行い情報交換・意見交換で頂いた意見をサービスの向上に活かすよう努力している。	運営推進会議は18時から開催し地域住民や警察官、有識者、行政、家族など参加者が多い。毎回、院長の事例を用いての勉強会を行っている。また事業所の実践もスライドでわかりやすく報告し、出された意見をサービスに活かしている	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に運営推進会議で情報交換を行い必要に応じて相談をし助言を得ている。	包括支援センターと介護保険課から運営推進会議に参加がある。事業所の取り組みを伝えながら双方向の情報交換ができています	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修の勉強会や日常業務の中での事例について話し合い身体拘束をしないケアを行っている。職員はスピーチロックの実際を学び身体拘束の内容や弊害について正しく理解をし取り組んでいる。	年1回、法人全体で研修を受講するとともに事業所内で勉強会を持ち、身体拘束に当たる具体的な行為について正しく理解し、日々の実践の中で話し合い、工夫しながら身体拘束のないケアに取り組んでいる	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法については十分理解しており、日常生活の中でも虐待に繋がるような行為がないように注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は対象者がいないが発生した場合には法人の全体会議にて学ぶ機会をもち職員の共通意識を図るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退去時に限らず改定等の際は家族への十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	隔日に行っている推進会議の中で年二回の家族会の中で要望意見を出してもらい職員間、外部者へ表している又意見箱を設置している。	運営推進会議や年1回各ユニット毎に開く家族会で意見を聴くとともに、連絡ノートのほか面会時や利用料支払いに見えた時などには話す機会を持つことで意見や要望を引き出すようにしている。また接遇委員会がアンケート調査を行っている	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送りグループホーム会議等に限らず常にコミュニケーションを図り意見や提案を受け入れている。	月1回のグループホーム会議で話し合いを行うほか、法人と事業所の管理者が人事考課を行い職員の意見を聴く機会を設けている。日常的に意見を出しやすい雰囲気作りができており、出された意見は運営に反映させている	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体でのストレスチェックを受け過度なストレスがある職員に対しては全体で解消に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体会議、グループホーム会議での研修、勉強会を行うことにより個々のスキルアップを促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修やネットワーク協議会などに参加し意見交換を行いサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に本人、家族から生活についての不安や要望を聞き取り、本人とは会話をしながらゆっくり時間をかけて無理なく生活に慣れることができるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族から本人の普段の生活の様子を詳しく聞き取り、方針を説明し不安を取り除くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が一番困っていることを聞き取り支援し生活をしていくなかでより良い対応を見出すようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯物たたみ等本人のできる家事は毎日の日課として職員見守りのもと一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際には、現在本人がどのように過ごしているかを伝え、家族からの意見や要望があればできるだけ取り入れて一緒に行えるような支援に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人等はいつでも面会することができ希望に応じて家族と外出したり自宅へ外泊等もできるように支援している。	行きつけの美容院や馴染みの場所、自宅への外泊など、家族の協力を得ながら馴染みの関係が途切れないよう支援している	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が会話しやすく交流がもてるように性格や会話の様子を観察し席替えを行ったり、職員が会話の際仲介している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中、サービス終了においても問い合わせ、相談など気軽に対応できるように本人及び家族に伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は入居者との寄り添いを大切にしており日頃の関わりの中でも意向を把握している。	これまでの暮らしぶりや思い、希望などは個人のアセスメントシートに記録してある。日常の中での本人のつぶやき、表情などから聴き取ったことは申し送りノートに記録し、全員で情報共有ができています	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や御家族からの聞き取り等による情報収集及び入居後の職員の気づきによって意向や希望を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を記録に残し入居者の生活のリズムを把握するとともに必要に応じて支援の方法を話し合ったり変えたりしている。又いまでできることをしてもらい有する力の活用を導きだしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や御家族からの聞き取りによる情報収集やグループホーム会議やミーティング時に介護方法の検討を行い、それらの情報を反映させて介護計画の作成にあたっている。	モニタリングは基本的に3～6ヶ月ごとに行っているが、変化のあった時はその都度見直しを行っている。家族には面会時に意見を聴いたり電話連絡を行っている。計画は担当職員、リーダー、計画担当者、理事長が職員の意見を聴きながら作成している	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の日常の様子や変化等個別記録に記入し職員間の情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や御家族のそれぞれに合ったニーズを把握し考え柔軟な支援やサービスの提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアによる定期的なレクリエーションに参加したり、近隣の中学校の職場体験を受け入れ交流し楽しむことができる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の往診を定期的を受けられる。又歯科受診は家族の協力もあり同行にて治療を受けている。状況に応じて訪問歯科の利用をしている。	かかりつけ医は隣接の同法人の医院のほか希望に添って対応している。訪問診療や看護との連携も24時間体制でできる利点があり、他の専門医および協力病院との連携もとれている	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化は常に把握し特変があればすぐに報告し指示を受けるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関、歯科医院を定め情報交換や相談を行い急変の場合に速やかに対応できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の医療機関との連絡体制や看取りについての指針を定め入居時に本人、御家族に十分に説明し希望を聞き取り同意を得ている。	「重度化した場合の指針」と「本人および家族の意志確認書」を文書化している。入居時に説明し、状態変化の都度に説明を行い、家族の意向を確認しながら看取りを実施している	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを常時設置しすべての職員がすぐに行動できるようにしている。月に1度の会議の際にも話し合い職員一同共通認識のもと実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網を整備し連絡の連絡体制を確認している。又防災訓練には全職員が参加している。当事業所は地域の避難所になっている。	ユニット毎に年2回 昼夜の火災訓練、通報訓練を実施。また法人と合同の訓練を年2回実施している。今年度は運営推進会議を通して地域全体で防災訓練を実施することが決まり、年度内に地震に対する防災訓練も実施を決定している。法人母体が福祉避難所になっており備蓄もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを大切に思いを尊重し必要な部分だけをさりげなく支援するように努めている。利用者のプライバシーを守る工夫を職員間で話し合い支援に努めている。	一人ひとりの尊厳やプライバシーを大切にす るケアについて研修や会議で意識づけをして いる。日々の関わりの中での声かけや、気づ きノートでの申し送り、お互いの意識づけな ど、プライバシー確保に努めている	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	意志疎通の難しい方への日々の表情など を応えやすい選択肢を作り本人が自己決定 できるような場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切にし、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調などを伺いながら一人ひとり のペースで過ごせるように希望にそって支 援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	起床時好みの洋服を着ていただき又外出 時には帽子、マフラー等でおしゃれをしてい る。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準 備や食事、片付けをしている	利用者と同じテーブルで食事をしながら会 話を楽しんでいる。又テーブル拭きも手伝っ ていただいている。本人の好みや食べやす い食事形態に配慮している。	朝食は各ユニットで、昼食と夕食は法人から 運んで、盛りつけや温め等 利用者もできるこ とは一緒に行っている。おやつは季節感のあ るものや希望を入れながら手作りをしてい る。行事食ではワインをいただいたり、食事 時は職員も同じテーブルにつくなど食事が楽 しい時間になるよう細かい支援をしている	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	一日の食事量や水分量、確認し体重の増 減も把握し摂取困難時は形態を変更し栄養 補助食等を提供している。又エンジョイゼ リー等で補うようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	毎食後個々に応じて口腔内の清潔保持に 努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活リズムパターン表を使用することにより、個々の状態を把握し、必要に応じて声かけ誘導を行っている。立位保持できない方に対しては職員二人対応でトイレでの自然排泄を支援している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、個々に合わせた支援ができています。各部屋にウォシュレットのトイレがあり、不使用時には布をかけるなど尊厳への配慮もされています。昼、夜でおむつやリハビリパンツの使用を考え、最近リハビリパンツから布パンツになった利用者もいる	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便の形状を確認し、食事形態や水分摂取量、食事介助のペースを調整している。又食事前には体操も行い必要に応じて廊下歩行等の個別運動も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日々の介入により個人に合った基本の曜日は決めているが、当日本人へ声かけと共に希望時間等も再確認している。体調面も踏まえて柔軟に対応できるようにしている。	利用者の希望や体調に合わせ、毎日準備し入浴できるように支援している。最低週2回は入浴しているが、できない際は手浴、足浴などを行っている。浴室は安全に配慮した手すりや滑る止めマットなどを活用し、また重度の方も浴槽につかれるように配慮している	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	前日の様子や夜間帯の様子を職員間で共有し、昼夜逆転にならないように活動量を調節している。又必要に応じて昼寝を促し、心身の休息時間を設けるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬品情報をステーションに置くことにより職員全員が確認できるようにしている。変更があった際には口頭と書面にて申し送りを行い、症状の変化等も定期的に主治医に報告することで経過観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味を把握し生活リハビリの一環とした洗濯物の片づけや清掃活動を職員と一緒にできるような支援している。又脳トレパズルや集団レク等に楽しめるような時間を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じられるように定期的な外出計画を立てている。外出困難な方でも近所の散歩に出かけたり外気浴を行っている。家族の協力のもと外出できる方もいるため継続できるように支援している。	近隣の散歩、玄関先や中庭を眺めながらデッキスペースでのお茶会など、日常的に外気にふれることを実践している。また季節ごとに定期的な外出計画を立て、医師同行で遠出をしている。個々の馴染みの場所、希望の場所への外出支援も家族の協力を得ながら実施している	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の必要なとき本人やご家族様の確認のうえでお金の使用ができています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様に不安のないよう何かある時のみならずすぐに対応できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には季節の花を飾り日々に変化をつけ工夫している。	共用空間から中庭が眺められ、開放的である。中庭には様々な山野草が植えられ、それらを室内の随所に活けており、季節感や回想につながり話題にあがっている。廊下にはタタミの長いすが置かれ、壁面の飾りなどもすっきりと整えられており、落ち着いた雰囲気です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるように席替えをしたりする等居心地よい空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の清掃又本人と御家族と相談しながら本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	持ち込みの家具や植物、愛読書、家族の写真、ハンガーに掛けられた洋服など、それぞれの居室が居心地の良さに配慮されており、個性的に設えられている	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個別の対応も行い声かけ傾聴もしてできることを見つけながら自立した生活が送れるように工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470101967		
法人名	医療法人 展寿会		
事業所名	認知症対応型グループホーム「ふじ乃家」<別館>		
所在地	大分市大字寒田235番地の16		
自己評価作成日	平成30年9月1日	評価結果市町村受理日	平成31年1月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様それぞれの体調や状況に合わせ、細やかにケアの見通しの会議を行いスタッフ全員で統一出来るようにしている。 ・体調の変化時併設の梶本医院と連携をとりすぐに対処できている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>【認知症対応型グループホーム「ふじ乃家」<本館>に記載】</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、職員全員で理念の唱和を行い業務に取り組むことで、共有するとともに日々のケアに活かせるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	GH独自ボランティアの受け入れや、法人全体で行われる行事に参加し、入居者が地域の方と交流できるようにしている。また、職員も地域の防災訓練に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日々の業務の中で起きたこと事例や取り組みをもとに推進会議を通じて地域に情報を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	書面の資料のみでなくスライド写真や動画で分かりやすく取り組みを発信できるように心がけている。出席者より意見を出してもらい活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議などに参加の依頼を行い、積極的に事業者の実情の発信が報告できるように取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人での勉強会に参加し全員が共通認識のもとケアにあたっている。また、ケアの見直しの時にも拘束に対しての意見交換を行い再認識の場を設け取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の勉強会に参加し全員が共通の認識のもとケアにあたっている。日々の対応が虐待にあたらないか話し合いの場を設けたり業務の見直しを行い防止に努めている。		

事業者名:グループホーム「ふじ乃家」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体の内部研修や外部研修で学べる環境を得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居退去時には他職種と共にご家族と話をし不安な点についてはその場で納得していただけるように心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり年2回家族会を計画・実行している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のスタッフ会議やその都度必要に応じて個人と話す機会をもっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本人の得意・不得意を含めて係についてもらいやりがいを持って仕事に取り組めるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	気づきノートを活用し朝礼を通してケアの統一ができるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設による見学や実践実習を受け入れる事で情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に関わる人から情報を収集し事前に職員間でケアの統一を図りケアを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とも情報を共有しながら必要に応じて他職種とも相談し話やすい関係を築けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを利用前には本人・御家族と情報を共有し、その人らしい生活が送れるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ること、やりがいを見つけ得意なことを活かし生活を送れるようにできるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会やグループホームの広報誌、面会などを通して情報を共有できるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	運営推進会議で地域の方に参加を案内したり地域の防災訓練に参加し施設のことにふれ話を広げている。また、地域ボランティアの受け入れを行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃の状態などを把握し必要に応じて席替え等をし利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時に本人・御家族との関係を大切にしながら面会を行う。また、御家族の相談や支援に応じて関係を断ち切らない取り組みをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向を共有し全員が把握しながら本人本位に寄り添いながら過ごせるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの暮らし方や生活環境を本人と御家族から聞き取りをしてこれまでのサービスの経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活パターンや体調管理を記録し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定例の会議で本人・御家族と話し合ったことを報告し今後の介護計画を作成する。必要に応じて現状に即した介護計画が作成されるよう会議をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活を記録し気づきがあれば、その都度職員間で共有し話し合い介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や御家族の意向に応じて理容・美容の送迎付き添い訪問歯科の受け入れをしている。		

事業者名:グループホーム「ふじ乃家」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2か月に一度運営推進会議を開催し地域の警察・地域包括支援センター・自治会・老人会の代表者に参加してもらい意見情報交換の場を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接の梶本医院より毎月2回の定期受診とし往診があり適切な医療が受けられるように支援している。専門(歯科等)医療の受診が必要な際は、外部受診とし御家族が同行している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のバイタルチェック様子観察にて気になったことはすぐに医院へ報告し治療等必要に応じて指示を受け薬の投与経過観察を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には最新のアセスメントシートを作成し入院先の医療機関へ情報の提供を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に急変時の対応について御家族への説明・確認をしている。日々の暮らしの中での状態の変化については面会時や電話にて報告を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応についてマニュアルを作成し梶本医院と連携を図っている。また、勉強会等行い実践を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	本館・別館と合同で年に2回避難訓練を実施している。また、年に1回の地域の防災訓練にも代表者が参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々を大切に思い不適切な対応等あればその都度是正する。人格の尊重・相手の立場にたった対応を常に意識している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に合った声かけアドバイスをわかり易く伝わるように実施している。気にせず思いを伝えて頂けるようゆっくり傾聴し本人の意志を尊重する雰囲気になるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や気分により無理のないよう本人の望むような毎日を過ごしていただけるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出や行事の際はお化粧をしたり外出着を選んでおしゃれに興味をもってもらえるよう服装を提案している。理美容を定期的にご利用し髪型もすっきりし気分を変えてもらえるように支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや配膳・片づけ等できる範囲で行っている。職員も同席で食事をとり話をしながら家庭的な雰囲気の中で楽しく食事ができている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分は常時記録に残し一日の摂取量を確認している。体重測定も行い栄養状態を確認している。個々に応じて食べやすいような形態や軽食器などを使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。個々に応じて見守り、声かけ一部、介助を行う。また、食後の水分摂取をすることで口腔内をすっきりしてもらうようにしている。		

事業者名:グループホーム「ふじ乃家」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意があり自分でトイレに行くという一連の動作が成立しているときはその力を尊重する。残存機能をいかし排泄の自立を支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の水分量を記録している。それと共に排便の記録もする。便秘や下痢等からだの不調が長引かない様に指示をうけた上で便秘を解消する内服をすすめる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前にバイタルを測定する。一人一人の希望に合わせて入浴を楽しんでもらう。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝の時間が遅くならないように配慮している。明らかに睡眠がとれていない時は昼間に休息をすすめる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	体調をよく観察しいつもと違う変化があるときは、看護師に報告し医師より指示をもらい対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	少しでも役割を持ちたいという要望があるときなどは、洗濯物干しや洗濯物をたたんでもらう等おこずの盛り付けをしていただけるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとに桜の花見や菖蒲の花の鑑賞ほたるをみに出かけた冬にはイルミネーションもみにいくことがある。毎年恒例の法人あげの御家族と一緒に出かけるバスハイクもとりおこなわれている。		

事業者名:グループホーム「ふじ乃家」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこずかいとして御家族から預かっており必要な場合は1人ひとりの希望や力に応じてお金を所持したり使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯で自ら家族に相談したりできる。御家族からの電話を本人にとりついでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面づくりを一緒に作成したものを飾り季節を感じてもらおうようにしている。季節に応じて室温調整をしている。窓から外をながめ中庭の木を眺めることができている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方と隣になれるように席の配置に配慮している。ひとりで過ごしたい方は、居室にもどりテレビをゆっくり見れるような時間を過ごせる様工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族の写真を置いたり使いなれたCDプレイヤーやテレビを置いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、廊下に手すりがあり安全な環境に整え残存機能をいかせるように支援している。		